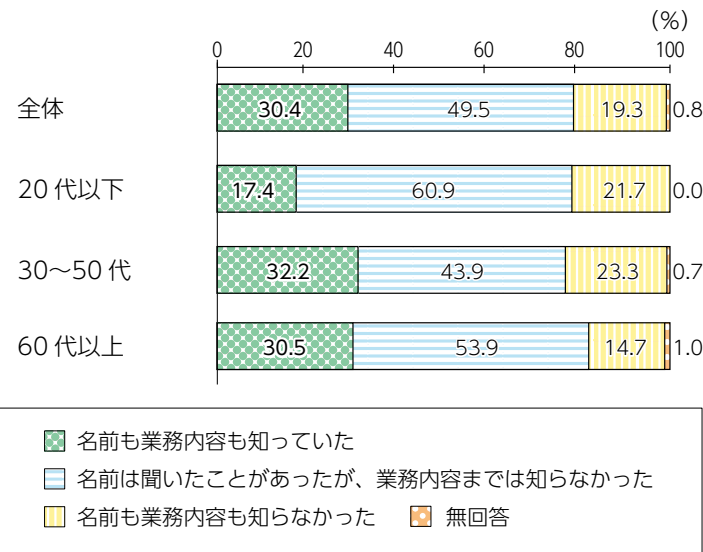
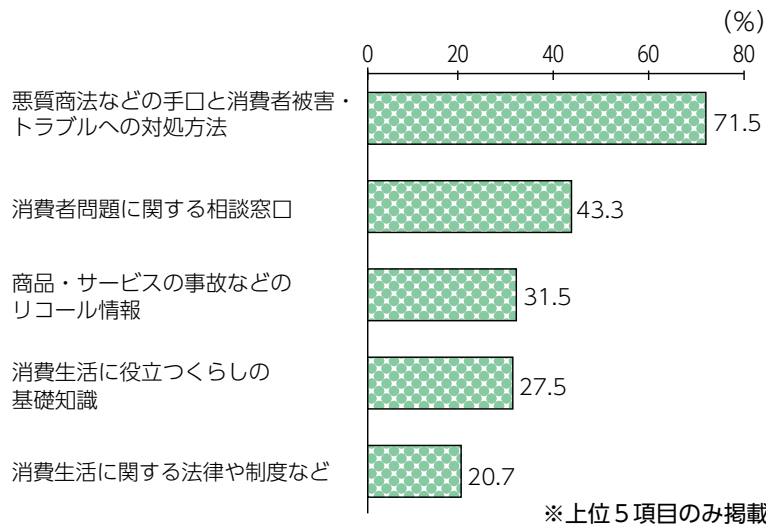




「消費生活センター」の役割や業務内容の認知度は、「名前も業務内容も知っていた」が30.4%、「名前は聞いたことがあったが、業務内容までは知らなかった」が49.5%、「名前も業務内容も知らなかった」が19.3%となっており、60代以上は「名前も業務内容も知っていた」が30.5%、「名前は聞いたことがあったが、業務内容までは知らなかった」が53.9%となっており、20代以下は「名前は聞いたことがあったが、業務内容までは知らなかった」が60.9%となっている。

Q あなたは「消費生活センター」の役割や業務内容を知っていますか。

消費生活センターの役割や業務内容の認知度

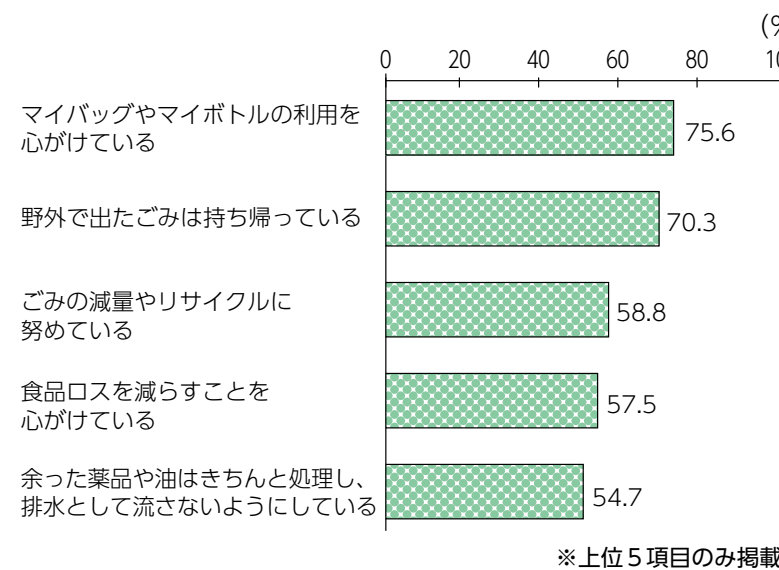


消費生活に関して、欲しいと感じる情報はどのようなことですか。(複数回答)

消費生活に関して、欲しいと感じる情報は、「悪質商法などの手口と消費者被害・トラブルへの対処方法」が71.5%と最も多く、次いで「消費者問題に関する相談窓口」が43.3%、「商品・サービスの事故などのリコール情報」が31.5%となっています。

Q 消費生活に関して、欲しいと感じる情報はどのようなことですか。(複数回答)

消費生活に関して、欲しいと感じる情報



日頃から心がけていたり既に取り組んでいることは、「マイバッグやマイボトルの利用を心がけている」が75.6%と最も多く、次いで「野外で出たごみは持ち帰っている」が70.3%、「ごみの減量やリサイクルに努めている」が58.8%となっています。

Q あなたは、生物多様性の保全に貢献する行動として、日頃から心がけていたり既に取り組んでいることはありますか。(複数回答)

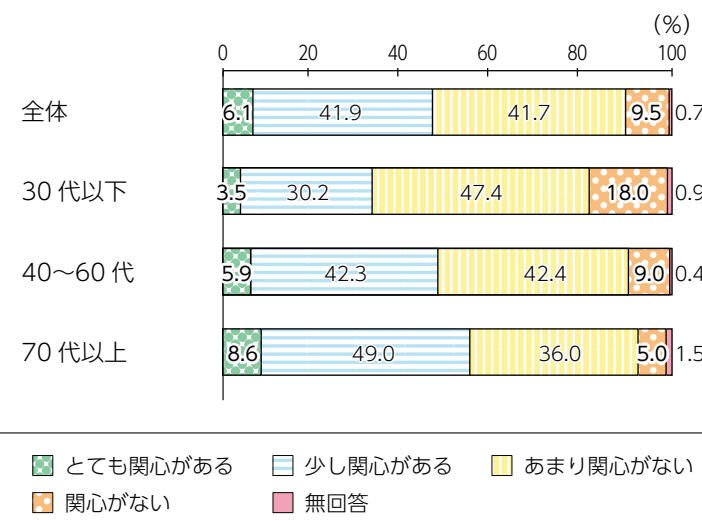
生物多様性に関する取組

市は、市民の皆さんの意見や要望を市政に反映させるため、毎年世論調査を実施しています。6月に行った世論調査の結果がまとまりましたので、一部を抜粋してお知らせします。今回の調査にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。貴重なご意見を参考に、今後の市政運営を行っていきます。



※詳しい調査結果は、各図書館や市ウェブサイトでご覧になれます。

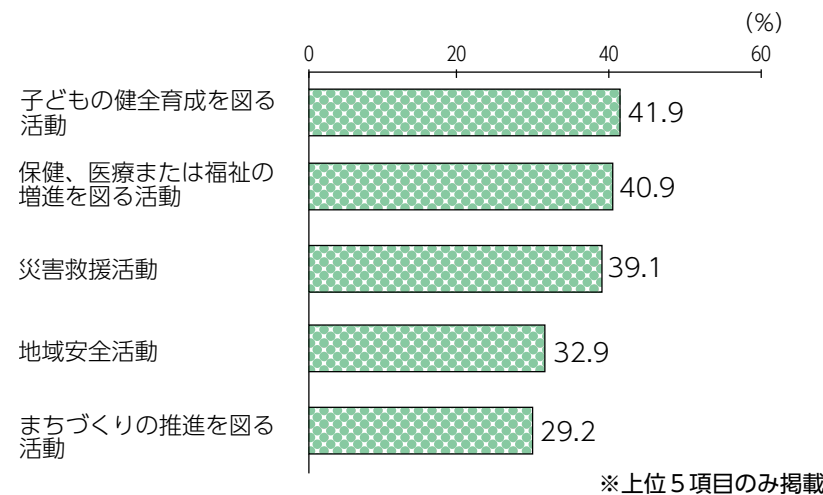
テーマ／「市民活動」、「消費生活」、「生物多様性」
 対象／市内在住の満18歳以上80歳未満の男女3,000人
 抽出方法／住民基本台帳から無作為抽出
 調査期間／6月19日～7月10日
 調査方法／配布：郵送、回答：郵送またはインターネット
 有効回収数(率)／1,417人(47.2%)
 ※調査結果の比率は、百分率で表示し、小数点以下第2位を四捨五入していますので、合計が100%にならないことや複数の合計が合わないことがあります。



市民活動への関心度は、「関心がある」「とても関心がある」+「少し関心がある」が48.1%、「関心がない」(「あまり関心がない」+「関心がない」)が51.2%となっています。「関心がある」は年代が上がるごとに多くなり、70代以上においては57.5%と最も多くなっています。

Q あなたは、地域活動やボランティア活動などの市民活動にどの程度関心がありますか。

市民活動への関心度



地域で必要だと思う市民活動は、「子どもの健全育成を図る活動」が41.9%と最も多く、次いで「保健、医療または福祉の増進を図る活動」が40.9%、「災害救援活動」が39.1%となっています。

Q あなたがこの地域で必要だと思う市民活動は何ですか。(複数回答)

地域で必要だと思う市民活動